

# Boarding Schools 父母らの会の趣旨

2003年7月2日

1. 名称「Boarding Schools 父母らの会」 Parents' Club for Boarding Schools (PCBS)
2. 性格 NPO / Volunteers
3. 名簿の完備  
First name、e-mail、学校名は会員に対しては公表を前提とし、fullname、address、tel は会としては非公開とする。但し、相互に親しくなって名刺交換されることは自由。
4. 会員資格  
・ 申込書を提出した又は会に出席した人
5. 目的
  - a. 会員相互の情報交換  
兄弟姉妹、孫、在校生の進路変更
  - b. B / S の探索と入学への強力なバックアップ
  - c. 入学後卒業までの実りある学業達成への強力なバックアップ
  - d. カレッジカウンセリングへの情報交換
  - e. 入学時までの予習と事前準備への補助
  - f. Online News Letter の発行
  - g. 各校別の相談者体制の整備
  - h. 会員相互の親睦と交流
  - i. 講演会の開催
6. 会合  
年数回ホテルオークラ又は FCCJ で。
7. 事務局  
〒100-0004  
東京都千代田区大手町2-2-2  
千代田国際経営法律事務所  
TEL : 3231-8888  
FAX : 3231-8881  
e-mail : school@chiyodakokusai.co.jp  
website : <http://school.chiyodakokusai.co.jp>

## ボーディングスクール父母の会を創設した動機

5/31/02

ボーディングスクール父母の会を創設した動機というか理由を申し上げます。

これからの時代を背負っていく日本人は組織の背景ではなく個人1人として世界に通用する人間になっていかななくてはならない。日立製作所の誰々さんとか三菱銀行の誰々さんではなくて、Seiji Ozawa や Issei Miyake のようにファースト・ネームで世界中から認知されて、そしてファースト・ネームで自分の能力を発揮していく。そこには組織の影も形も一切ない。そういう人間が1人でも多くこの日本から生まれて来なければいけない。

その為には世界の共通言語である英語をとにかく第一言語、Native Language にする必要がある。そしてやはり世界の超大国であるアメリカ人の考え方や生活習慣というものを幼児体験として、あるいは若い時代からの体験として嗅覚として知っていなければならない。そして第2言語はヨーロッパの言語である German か Spanish か French、これをマスターする。そして第3言語として日本語がある。そういう Tri-Lingual。一番 Native に出来るのが英語、2番目はヨーロッパの言語、そして3番目が日本語と。日本語は3番目の言語と、こういう Tri-Lingual で、そのうえ極めて高度な専門知識や専門技能を持った人間になっていかなければならない。

その為には College の段階からアメリカに留学したのでは遅い。高校まで日本に居てしまうとどうしても日本の思考様式や生活習慣が身につけてしまう。もう完成された人間になっている訳だからそれからでは遅い。ましてや私のように Graduate School の段階から行ったのではもう全然遅い。確かに Business の局面での英語は手繰られても本当にアメリカ人と冗談が言い合えるというふうな英語は手繰れない。しかしファースト・ネームで呼び合って人間関係を築いていき、Business までそれを発展させていくということになると、やはり Native に英語を操れるということが絶対に必要になってくる。それと同じようにヨーロッパの言語も出来なければならない。

そうなる则皆さん方の子供は是非高校から行ってもらいたい。出来れば Junior Boarding School と言われている中学から行った方がよい。今はもう東大だとか京大だとか、早稲田、慶應などと言っている時代じゃない。日本の大学は世界の基準からみれば全くの無名の大学、ローカルな大学、三

流大学に落ち込んでいる。そういう所に行ってもしょうがない。やはりアメリカの College、アメリカの Graduate School、イギリスの Oxford、Cambridge、こういった所をやはり目指さなければ世界の一流の人間に互して個人として競い合っていく、渡り合っていくということは出来ない。それを目指すにも Boarding School、Secondary School、あるいは Junior Boarding School の段階から行かなければならない。

そういう認識を広め支援する非営利団体が日本には必要だ。日本の教育改革を待っていたのでは自分の子や孫には間に合わない。こういうのが私が父母らの会を創った動機です。

僕がアメリカのボーディング・スクールでの教育を勧める訳

11/05/2002

ボーディング・スクール父母らの会

代表幹事：石角 完爾

例えば日本のマスコミの拉致問題の取り上げ方を見ていると極端に偏っているというかそれ一色で塗りつぶされているけれども、国際政治という大きな流れの中で見ると実は拉致問題はどうでも良いことであって、北朝鮮の一番大きな問題は北朝鮮の核兵器開発なのである。ところが日本のマスコミは拉致問題一色でこの問題をほとんど取り上げない。

つまり、世界的に見て今何が重要かと言うことがこの国には的確に取り上げられない。

教育においても同じことが言える。今アメリカのボーディングスクールで最も力を入れているのはコンピューター、バイオテクノロジー、バイオケミストリー、遺伝子工学等の分野である。もちろん数学にもすごい力を入れている。ところが日本の中学、高校で例えば理科の実験である生物のタンパク質を抽出してその遺伝子分析をする等ということをやっているところがどこにあるだろうか？ アメリカのボーディング・スクールではそういうことをやっている。統計学なども実は教えている所はたくさんある。宇宙工学という授業もある。

このようにこれから、そして今、最も学問、研究の分野で大きな流れになっている所の教育を日本の教育では受けさせられないのではないだろうか？ 私はそう思う。

もちろん、一番重要な英語教育、これをなくしては日本のビジネスマンは将来がないぐらいに重要な英語教育であるが日本の受験英語教育ではとてもおぼつかない。

つまり、日本の教育の質が低だけでなく、その向かう方向や、力を入れている観点の世界の流れから完全に取り残されていると私は確信するのである。だから僕はアメリカのボーディング・スクールの教育を強く勧めるのである。

最近の報道を見ているともっとひどいものがある。例の田中耕一氏の問題。ノーベル化学賞を貰ったということで大喜びをする記事ばかりが出ているけれども、実はもっと重要な事が報道されていない。つまり、ノーベル賞を貰った人が日本の企業では全く正当に評価されていなかったこと。ノーベル賞に匹敵する研究をしながら企業はそれを評価していない。たった1万円の報奨金を貰ったのみで社内での地位も係長以下、年俸に至ってはたった700万円。ところが、ノーベル賞を貰ったやいなや、昇進はするは、給料は上がるは、という大騒ぎになった。これなどは馬鹿丸出しでいかに日本企業が社員の発明・発見を正当に評価していないかということである。ノーベル賞を貰わなければ、ノーベル賞級の発見・発明をしても、全く奴隷と同じ様な扱いを受けているという事である。

だから僕はアメリカのボーディング・スクールに行くことを勧めるのだ。科学者や工学者、エンジニアを目指すものはやはり正当に評価してくれる国の教育を受け、そういう研究環境の中で働いた方が良いに決まっている。人を飼い殺しにしない、無駄に使い捨てをしない、評価が少なくても日本より正当な国で、のびのびと自由な研究をして正しい評価を受ける方が良いに決まっている。本人にとっても正当に評価される方が幸せに決まっているのではないか。田中さんだって給料が上がればうれしいだろうし、地位が上がればうれしいだろう。ノーベル賞を貰ってから後で与えるんじゃない。日本国の文化勲章の意味がないじゃない。国を上げて企業を上げてこの国は研究者やエンジニアに対して評価が正当じゃないんですよ。やはり、そういう国で勉強をするのは本人にとって幸せじゃないと思う。これが僕がボーディング・スクールを勧める理由なんだ。

## Stanford の MBA のクラスにて

5/31/02

私のアメリカ人の友人が Stanford 大学の Business School の Professor をやっているのですが、この間ちょっと電話で話をして、「最近の日本人はどうか？」と私は聞いたんですよ。彼のクラスには世界中からの留学生が来ている。もちろんアメリカ人もたくさんいる。僕が留学した頃ですね、今から30年ぐらい前はとにかく英語について行くだけでも大変だった。最近の若い20代から30代の人達は英語はもう全然問題ないだろうということで、「日本人の留学生を含めてクラスの出来はどうか？」と聞いたんです。

彼はランクを4つに分けるんです。Super Bright、これはもう凄い優秀だ。そして2番目は Bright だ、かなり優秀だ、3番目が Fine、これは普通。そして4番目が Poor、もう全然駄目と、クラスの邪魔者。こういう風に4ランクに分けて、さて1ランク目の Super だとその Professor が点数を付けているのは、さてアメリカ人でしょうか？ それとも留学生だとすればどの国の留学生だと思いますか？ これは彼のクラスのみならず、殆どのクラスでそうなのですが実はインド人の留学生なのです。そして Bright、聡明で優秀だと次のランクに位置されているのは何人だと思いますか？ これは我々の隣の Chinese なのです。中国人は優秀らしいですよ。そして3番目の Fine、普通にまあまあ出来るよ。普通程度。当然ここにランクされるのがアメリカ人ですね。そしてあと留学生ではどこでしょう？ 韓国なのです、韓国人。これは Fine、だから B Student ですね、B マイナスぐらいまで入るか。この辺りがアメリカ人それから韓国人が来る。そして最低ランクの Poor というか C、D Student ですね、F Student の一歩手前、クラスのお荷物だと。これが日本人なんです。彼のクラスに日本人が2人いるんですが、その2人がD評価を受けているんです。

それで、「完爾、言いにくいことだけれども、日本人は全然発言しない。全然 Class Participation がない。」と言うんですよ。それであまり発言しないものだから、Professor が指すと教科書に書いてあることしか言わない。それじゃ良い点はやれないと言うんですね。自分の考え、独自の独創的な自分の考えを披露してクラスを刺激することが全然ない、と。僕は若い

20代の後半の日本人は少なくとも僕らの50代の人間とは違ってもっと国際的に認められる世代かと。MBAでStanfordに行くような人ですから、日本では当然東大を出て興銀だとか野村証券だとかに入って、将来はその興銀の頭取だとか野村証券の社長になろうという、そういう人材なのです。そういう人がStanfordのMBAに入っているんです。TOEFLだって600をはるかに超えている。ところがやはり世界の強豪がひしめき合う所に行くと、Dの評価になるんですね、日本人は。

そのProfessorは私に言いましたよ。「これは日本人のやはりHabitだと。自分の頭で自分の考えを持つように教育されて来ていないHabitだから、そのHabitはもう出来上がってしまっていると直すことが出来ない。だから出来るだけ早い段階から自分の頭で考えて自分の意見を言う、自分の考えを持つというHabitを身に付けないとこれは駄目だよ。」と私にそのProfessorの友人が言ってくれたんですよ。

そういうことも含め考えますと、やはりボーディングスクールに行かなければ駄目、Collegeからでは遅い。出来ればJunior Boarding Schoolから行ったならそれに越したことはない。

そういう風に言いますと、おじいちゃん、おばあちゃん達の中には「日本人だから日本語を忘れてしまってどうするんだ。何か訳の分からない中途半端な日本人ともアメリカ人ともどっちつかずの人間みたいになってどうするんだ。」と。

そんなことを言っている時代じゃありませんよ。これからはビジネスは日本人ばい日本人だから出来るという、そういう時代じゃない。日産を建て直したのは“日本人ばい日本人”でしたか？ やっぱりシャクだけれども、Global Standardのアメリカ、このアメリカ人やヨーロッパ人、EUとして大きな国が出来ましたよね、経済人口3億2000万、そういう人間達とパートナーシップを組んでやっていけるといふ人材に個人として育っていかなければいけない。その為にはやっぱり日本人のHabit、組織埋没型の悪いHabitを身に付けていたのでは、それでは駄目でしょう。個人としての魅力を磨いていかないと、それは何々会社の何々さんではなくて、やはりファースト・ネームで認められる個人。自分の独自性や魅力を。そういう風な教育を受けて来なければいけない。